

第1回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 食・食育
- (2) 食の安全・安心
- (3) 神奈川県農林水産業
- (4) とともに生きる社会かながわ
- (5) 男女共同参画
- (6) 神奈川県の人権
- (7) SDGs(持続可能な開発目標)
- (8) 3R
- (9) プラスチックごみ削減に向けて
- (10) 職業能力開発
- (11) 犯罪被害者等への支援
- (12) 治安対策
- (13) ねんりんピックかながわ

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和2年9月11日(金)～10月5日(月)
- (7) 調査委託機関 株式会社CCNグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,699標本 〔 郵送回答 : 1,157件 インターネット回答 : 542件 〕
有効回収率	56.6%

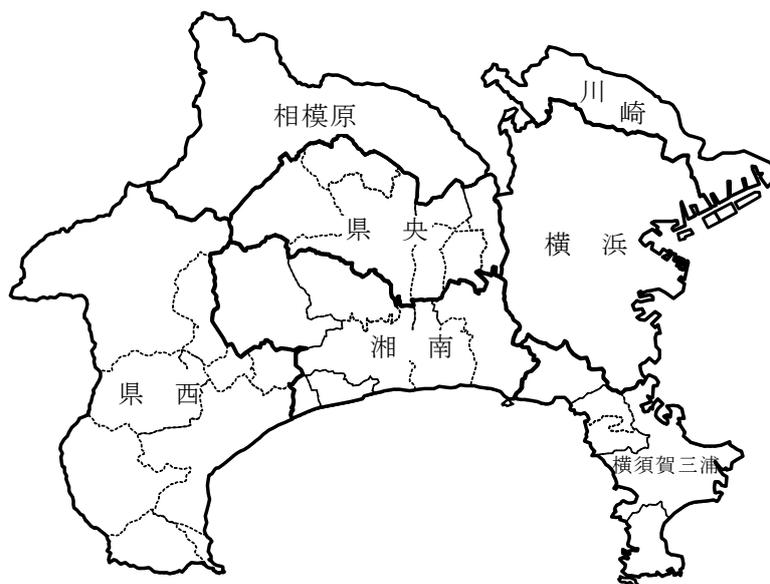
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	669	55.8%
川崎	川崎市	460	228	49.6%
相模原	相模原市	220	118	53.6%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	142	54.6%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	181	60.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	238	54.1%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	61	50.8%
無 回 答			62	
全 体		3,000	1,699	56.6%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（平成31年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,166,448人 60地点 1,200標本	-	-	3,166,448人 60地点 1,200標本
川 崎	1,257,176人 23地点 460標本	-	-	1,257,176人 23地点 460標本
相模原	612,764人 11地点 220標本	-	-	612,764人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	575,348人 12地点 240標本	26,162人 1地点 20標本	601,510人 13地点 260標本
県 央	-	680,966人 14地点 280標本	36,148人 1地点 20標本	717,114人 15地点 300標本
湘 南	-	1,011,601人 20地点 400標本	91,091人 2地点 40標本	1,102,692人 22地点 440標本
県 西	-	199,149人 4地点 80標本	93,221人 2地点 40標本	292,370人 6地点 120標本
人口計	5,036,388人	2,467,064人	246,622人	7,750,074人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（平成31年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 男女の18～29歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (8) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度95%のときの標本誤差 (%) を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) \ 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,699	± 2.06	± 2.74	± 3.14	± 3.36	± 3.43
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,699 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.36%以内（真の値は、63.36%～56.64%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 699) (%)

横浜	39.4
川崎	13.4
相模原	6.9
横須賀三浦	8.4
県央	10.7
湘南	14.0
県西	3.6

(無回答 3.6)

(2) 性別 (n=1, 699) (%)

男性	41.8
女性	52.9

(無回答 5.3)

(3) 年齢 (n=1, 699) (%)

18～29 歳	5.9
30～39 歳	12.5
40～49 歳	21.6
50～59 歳	22.1
60～69 歳	17.6
70～74 歳	9.4
75 歳以上	7.2

(無回答 3.6)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 699) (%)

小学校入学前	9.9
小学校在学中	13.1
中学校在学中	8.6
高校在学中	8.1
短大、専門学校等在学中	1.5
大学、大学院等在学中	7.3
学校教育終了[未婚]	23.3
学校教育終了[既婚]	24.1
その他	1.6
子どもはいない	28.6

(無回答 2.5)

(5) 家族形態 (n=1, 699) (%)

一人暮らし (単身世帯)	12.3
夫婦のみ (1 世代世帯)	25.7
親と子の世帯 (2 世代世帯)	49.7
祖父母と親と子の世帯 (3 世代世帯)	6.4
その他の世帯	3.6

(無回答 2.2)

(6) 職業区分 (n=1, 699) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	6.9
	家族従業者	1.3
勤め・内職	勤め (フルタイム)	41.4
	勤め (パートタイム)	18.5
	内職	0.3
主婦・主夫 (勤めについていない)	14.1	
学生	0.9	
無職	13.4	
その他	0.4	

(無回答 2.8)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=1, 163) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.8
	商工サービス業	5.4
	自由業	5.1
勤め・内職	経営・管理職	7.8
	専門・技術職	19.3
	事務職	23.3
	教育職	5.6
	技能・労務職	8.7
	販売・サービス職	20.2

(無回答 3.8)

